

診療科・部門案内

上部消化管
外科



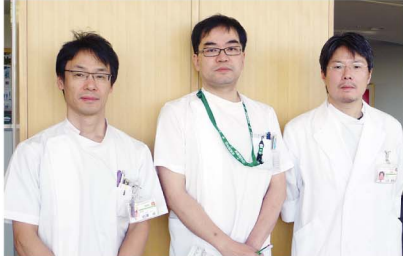
胃がん治療では、手術・化学療法を中心に、エビデンス（科学的根拠）に基づいた標準治療を安全かつ確実にを行うことを第一の目標として診療に臨んでいます。食道がんについては、手術、化学療法、放射線療法を組み合わせ、根治性とQOL（生活の質）のバランスのとれた集学的治療を行っています。

外来診療では補助化学療法、緩和医療を含めて地域の医療機関と積極的に連携を進めています。

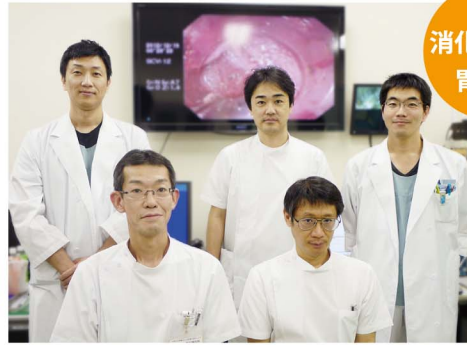
また、研究面では、将来の胃がん治療の発展のために厚生労働省助成のJCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）をはじめとしたさまざまな臨床試験にも積極的に参加しています。

●手術件数・治療（平成23年度）

- 胃がん（117件）
- 食道がん（5件）
- 外来化学療法
- 入院化学療法
- 化学放射線療法



消化器内科
胃腸膵



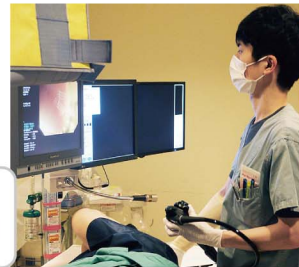
胃腸膵疾患全般に対応し、緊急を要する疾患は救急科・外科・放射線科と連携し対応しています。地域がん診療連携拠点病院として、がんの診断はもとより早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）※2や進行がんに対する狭窄部へのステント留置術※3などを積極的に行っています。年間約1,300人の入院診療、消化器疾患を中心とした外来診療および年9,000例を超える内視鏡検査・治療を行っています。

●診療実績（入院患者数）（平成23年度）

- 胃がん（241件） ●食道がん（70件） ●膵がん（74件）
- 大腸がん（107件） ●消化管出血（236件）
- 腸閉塞（73件） ●炎症性腸疾患（30件） ●膵炎（60件）

※2 内視鏡的粘膜下層剥離術：早期がんに対し行われる内視鏡治療で、専用の処置具を用いて大きな病変を切り取ることが可能な治療法

※3 ステント留置術：ステントという金属の筒を血管に置き、狭くなった血管部分を拡がった状態に保持する



なるほど
納得！
豆知識



ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）とは



ピロリ菌は通常細菌が生息できないような、強い酸性の胃の中に住む特殊な細菌です。ピロリ菌は胃粘膜の慢性の炎症を引き起こし、胃潰瘍・十二指腸潰瘍や胃炎の原因になっています。1994年にはWHO(世界保健機構)がピロリ菌を胃がんの発がん因子と指定しました。

ピロリ菌保菌数

日本人の約50%が陽性（50歳以上約80%）

慢性胃炎のため、胃痛や胃もたれの症状がある方や、胃潰瘍、十二指腸潰瘍を繰り返し再発されている方は検査により、ピロリ菌保菌の有無を調べることができます。

ピロリ菌の検査

内視鏡検査

胃粘膜の一部を採取して行う

内視鏡を使わない検査

- 抗体検査（血液・尿・便）
- 尿素呼吸試験（検査薬を飲んだ後に呼気を集め調べる）

ピロリ菌の除菌治療

除菌のみの治療は保険適用外となっています。特定の疾患のみ保険が適用されます。保険適用疾患

- 胃潰瘍 ●十二指腸潰瘍 ●胃MALTリンパ種 ●特発性血小板減少性紫斑病 ●早期胃がん内視鏡的治療後

ピロリ菌は飲料水から感染すると考えられていて、水質が良くなった現在は新たな感染者は減少しているとされています。

